

記述式試験問題への対応方法

心構えと対応

舗装診断士の記述試験は全部で5問出題され、そのうち問1および問2が必須問題であり、問3から問5の中から1問選択する。(平成29年度試験)

配点は以下のように推定される。問1が40点、問2が30点、選択は問3～問5から1問選択で30点満点。内容の難易度から推定すると問1及び問3～問5(選択)が40点程度の重要度がある。

いずれにしても合格点は60点以上と思われるので、まず問1で30点以上確保することに注力すると同時に問3～5の内、得意部分に絞り集中的に学習すること。

出題分野は、平成29年度の必須で問1が経験問題、問2が舗装の調査・点検・維持修繕における基本的知識を問う問題となっている。

問1は経験問題ではあるが、記述内容に限定があり、”「舗装診断士」としてふさわしい”と考える業務に特定されている。 ”ふさわしい”は、主催者(日本道路建設業協会)の”資格試験の案内”の中で「舗装診断の定義」が示されていることから、その範疇での経験内容を記述すべきである。本テキストの解説の中に示しているので参考にする。

問2は前述の舗装の調査・点検・維持修繕における基本的知識を問うものであるが、既に択一問題の中および解説(問9,12,14,15,16,21)で基本的知識について示されており、択一問題との連携で対応出来る内容である。

問3(アスファルト舗装)および**問4**(コンクリート舗装)は路面の破損状況を写真で示し、それぞれの設計条件、既設舗装条件を示すことで①推定される破損原因と根拠、②実施すべき調査・試験方法、③補修案と選定理由を制限文字数内で記述する問題である。

今回の内容については、それぞれの問の解説に①～③に至る技術的背景を示したことから、解説を理解することで対応出来ると考えられる。

関連する内容は択一問題の中(例；問10,12,13,16,17,19,20,21,28,32,37,40,44,46)に、既にヒントとして示されていることから、択一問題の解説でほぼ網羅されていると考えられる。

問5は設計条件、既設舗装条件と維持修繕経緯及び破損状況から、最適な補修工法選定の記述式設問であるが、長寿命化という課題が設定されている。関連する択一問題(問17,26)の解説は舗装点検要領(H28-10 国土交通省)や舗装点検必携(日本道路協会)を参照していることから、こういった参考文献をおさらいすることを推薦する。

以上で記述式問題に対する対応は理解できたと思うが、重要なのは、問1に付いては事前にとりまとめて実際に記述すること、かつ理解者にチェックを依頼し、必要に応じて再度書き直す。

他の記述式問題も、今年度以降大きく傾向が変わることは考えにくいことから、基本知識の整理はテキスト(「VRで学ぶ舗装工学」)を勉強し、実務部分については本サブテキストの解説を復習することで十分な対策が取れるものと考えている。